

# 令和元年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

## － 第2回理事会（総会） －

### 議事録

日時：令和2年2月7日（金）

午後2時から4時

会場：みなみのかぜ支援学校

司会：山之口教頭

#### 1 開会行事

##### (1) 会長あいさつ みなみのかぜ支援学校 川越 俊彦 校長

本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。2月になりましたが、感染症等いかがでしょうか。支援学校では、明日から高等学校新人駅伝大会が行われ、支援学校合同チームで参加し、共生社会、パラリンピックに向けて日々、努めているところです。

本日は今年度の事業報告や来年度の計画について、ご検討いただきたいと思います。県特研連も現在、運営の仕方について見直しの時期にきています。大会の在り方、障がい種別会の整理を理事会等で行っているところです。2月20日に行われる県特研連の総会において、組織全体の在り方、働き方改革に伴う県大会の在り方について検討していく予定となっています。

##### (2) 本日の日程、配付資料確認

第2回理事会の会次第、各種マニュアルの3つ、封筒（理事の方）

#### 2 総会

##### (1) 令和元年度知的部会事業報告 みなみのかぜ支援学校 西内 T P.1、P.2

別紙参照。理事会は6月と2月の2回実施し、今年度は知的部会の組織見直しと、全特連大会の参加、九特連大会への参加協力、ホームページ更新を行った。その他、来年度の長崎大会は九特連と全特連大会を併催し、宮崎県からも第7分科会で児湯るびなす支援学校の門村教諭が発表者として決まっている。

##### (2) 令和元年度知的部会収支報告 みなみのかぜ支援学校 和田 T P.3、P.4

別紙参照。収支決算の中間報告を行う、収入の部で昨年度までは、1万円で、会費は小中特研より、九州大会が宮崎県で実施される年は倍額だったが、今年度から2万円で統一された。次年度繰越金については、3月に監査を受ける予定となっている。また、令和元年度の特別会計報告として、宮崎県特別支援教育研究連合より補助金として2万円いただき、令和10年度九特連宮崎大会の運営費として2万支出し、九特連の通帳に移している。こちらについても3月に監査を受ける予定となっている。

##### (3) 令和2年度以降の知的部会の組織運営について

###### ○ 組織運営について みなみのかぜ支援学校 西内 T P.5からP.7

今年度は組織の見直しを行った。知的部会とは、知的障がい特別支援学校と知的障がい特別支援学級の職員で構成された組織である。九州地区特別支援教育研究連盟（九特連）、全日本

特別支援教育研究連盟（全特連）への参加協力を行う。例年夏季休業中に開催している知的障がい教育研究部会研究大会の運営を行う。

組織について、ブロック部会は地域での研究組織で、宮崎、南那珂、都北・西諸県、児湯、日向・東臼杵、県北ブロックで構成されている。障がい種別教育研究部会は、知的障がい、肢体不自由、視覚障がい、聴覚・言語、病弱、情緒障がいの6つの研究部会で構成されており、障がい種別であるが、一緒に行うこともある。

組織の方針については、理事会は決定機関であり、業務は分業するため、各業務の担当校から案を提出する。事務局は、みなみのかぜ支援学校が行う。広報は、延岡しろやま、みやざき中央支援が担当する。

理事については理事会に参加し、研究大会の企画運営は2年ごとのローテーションとなる。これらを表にしたものがP.6の表のローテーションになる。令和14年までの担当を掲載している。日向ひまわり支援学校から始まる。ブロックについては、前回の理事会を受けて各地区を県北部、県西部、県南部、県中部とした。例えば、県北部の日向ひまわりだったら、延岡・西臼杵・日向地区の各学校も協力して研究大会を進めていく。今後、県特研連ブロック部会組織見直し予定のため、ここに表記したローテーションについては変更の可能性あり。資料訂正がある、P.6の※の上から3つ目で「延岡くろしお」は「延岡しろやま」の間違いである。

#### 【質疑】

延岡しろやま支援学校 水野 T

ブロック部会について、令和4年度以降は現在、未定となっているが、負担軽減のため、研究大会の併催についてはどうなっているか。

#### 【回答】

みなみのかぜ支援学校 川越校長

県特研連の大会は、併催も認めるという方向で現在、検討中である。決定ではないが、負担軽減のため、今後そうなるだろう。

みなみのかぜ支援学校 西内 T

令和3年度は、ブロック部会は休会となっているので、今後調整していけるのではないかと。

#### 【回答】

日向ひまわり支援学校 飯干 T

現在、準備を進めているところだが、結論が出てから、適宜対応をしていきたいと思う。

#### 【質疑】

日南くろしお支援学校 佐藤 T

これまで、研究大会を担当校が実施していた。今回から各地区の小中学校も入っているが、どの程度、企画運営に携わっていただけるのかが見えない。どこまで関与していくのか。

#### 【回答】

みなみのかぜ支援学校 山之口教頭

日向の動きを見てからだと思うが、それは、各地区によって異なるのではないかと。地区の中で話し合っていて決めてほしい。

みなみのかぜ支援学校 川越校長

小中特研との日程調整が難しいという経験は確かにある、反対にスムーズに連携がとれたケースもある。役割分担を決める際には、それぞれの学校の校長同士がまずは連絡を取り合い、調整してもらう必要がある。

小中特研事務局 小野 T

各地区によって異なる。メンバーも替わるため、大会のある地区の人数を増やすなどして事務局の体制を整えていけば、対応していけるのではないかと。

○ 規約について みなみのかぜ支援学校 和田 T P.8、P.9

P.8を参照。下線部が変更点となる。第7条の役員の副会長について、以前は研究大会がみやぎ中央支援学校でのみ行われていたため、支援学校校長1名と、小中特研から1名の計2名だったが、各地区で研究大会を行うようになるため、副会長となる小中特研会長の先生が1名、研究大会を行うその地区の支援学校校長1名、その地区の小中特研地区研究会会長1名となるため、2から3名へと変更している。

P.9を参照。第17条について、これまで小中特研からの負担金は1万円で、九州大会が宮崎県で実施される年は倍額だったが、今年度から2万円で統一された。

司会 みなみのかぜ支援学校 山之口教頭

ここで規約について承認をいただけますか。(拍手)、ありがとうございます。では、承認されましたので(案)を消してください。

○ マニュアル(研究大会実施・HP運用)について みなみのかぜ支援学校 西内 T、小園

研究大会実施マニュアルについて、運営における担当校の独自性を保証する。内容については担当校に一任するものとする。どのような協力体制となっていくかは、それぞれの地区によるものとする。

P.3は、研究大会の担当校の開催スケジュールである。会計の簡素化を図るため、早い段階(前年度)で予算を渡し、大会運営がスムーズに行えるようにする。大会終了後は、会計(残金)を事務局に返金して0にする。これらの流れ(マニュアルの残りのページも含め)について承認をいただきたい。(拍手)承認となる。

(4) 令和2年度知的部会事業計画案について みなみのかぜ支援学校 西内 T P.10

理事会開催は、6月、夏休み中、2月の3回を予定している。内容は、県特研連の組織が今後変わる可能性があることから、知的部会の組織見直しを行うこと。その他として、全特連大会、九特連大会への参加協力、ホームページの更新を行うことである。

年間事業計画については、表の通りとする。5月は支援学校のみで集まり知的部会の運営について共通理解を図る。6月の理事会で予算の提示、例年11月に実施している理事会を8月に予定している。また、その他で、長崎大会の助言者は未定となっているが、県教委の指導主事が担当することになっている。令和3年度の熊本大会は、8月の5、6日となっている。

**【質問】**

延岡しろやま支援学校 水野 T

例年8月の初旬にブロック部会や総会を実施してきている。開催日の調整は可能か。他の部会はどうなのか。

日向ひまわり支援学校もその日を予定している。

**【回答】**

みなみのかぜ支援学校 西内 T

案なので、今の意見を考慮して検討していく。

みなみのかぜ支援学校 川越校長

毎年夏は、研修が重なり忙しい時期でもある。錯綜するため、行事等決まったら、早めに教えていただきたい。

- (5) 令和2年度知的部会予算案について みなみのかぜ支援学校 和田 T P.12

別紙参照。収入の部は、今年度の学級数で計算しているため、来年度の学級数で金額が前後する。弘済会助成金については、来年度研究大会はないため、0となっている。支出の部では、小中特研への負担金補助で、九州で全国大会が開催される年のみ1学級あたり150円補助となっているが、令和2年度に長崎大会が実施されるが、小中特研より負担しなくてもよいとの報告を受けているため、0となっている。この予算案で進めていく。

- (6) 令和2年度理事選出について みなみのかぜ支援学校 西内 T P.13、P.14

封筒の中に同じ文章が入っている。FAX送信票が入っている。次年度の理事になる方へ確実に渡してほしい。メールアドレスについては、確実に届くように確認してほしい。

- (7) 令和2年度以降の九特連・全特連大会提案者等について みなみのかぜ支援学校 西内 T

P.15を参照。来年度、長崎大会が実施される。備考欄に九情研の依頼がきている。こちらは、みなみのかぜ支援学校の職員で対応する。令和3年度、和歌山大会にて、西都・東児湯地区の発表があることを確実に伝える。引き継ぎをお願いする。

**【補足】**

小中特研事務局 小野 T

その大会の発表は、東児湯地区が担当で決定しているため、引き継ぎをお願いする。

### 3 連絡

- (1) 各係より

- (2) その他

**【質問】**

日南くろしお支援学校 佐藤 T

理事を4、5年務めているが、高等学校も特連の中に入って一緒にやっていきたいという声が数年前にあがっていたが、その後どうなっているか？

**【回答】**

みなみのかぜ支援学校 川越校長

2、3年前には話があった。働き方改革や県大会の負担が大きく、ブロック部会の在り方

も変えていく必要がある。今はそちらの方へ移行してきた。高等学校の参加については、現在止まっている状況である。行事の見直し、負担のない大会の在り方、その辺をまずは解決させていき、その後、高等学校の参加についての話となるのではないかと考える。これについては、時間がかかると思われる。例えば、通級がある高等学校だけが参加なのかなど。他県でもその例がある。

副会長 原口 T

通級を設置している高等学校の校長でも話は出ている。今後検討していく。

#### 4 閉会行事

##### (1) 副会長のあいさつ 宮崎市立本郷小学校 原口校長

本日は、今年度の事業報告や次年度からの計画について話し合いをしていただき、ありがとうございました。協議内容について、先生方の力を借りながら、来年度も事業を進めていきたいです。サポートしていただき、地区の先生方の御協力、よろしくお願いします。